

新「共通特論 I」：臨床腫瘍学総論
腫瘍免疫の基礎と個別化治療に向けた臨床応用

講義日：2022年5月21日（土）

講師：山上 裕機（和歌山県立医科大学 第2外科 教授）

要旨

抗腫瘍性サイトカインの発見以来、悪性腫瘍に対するサイトカイン免疫療法が脚光を浴びた。しかし、腫瘍細胞特異的 T 細胞が効率よく誘導されないことや癌細胞からの免疫抑制性シグナルなど、癌免疫療法には大きなハードルがある。

肺癌は最も予後不良な癌であり、腫瘍新生血管に特異的に発現している Vascular Endothelial Growth Factor Receptor 2 (VEGFR2/KDR) 由来のペプチドを用いた新しい癌免疫療法の臨床試験を行った。その結果、免疫応答を認める症例があることが判明した。近年、免疫チェックポイント阻害剤の臨床的有用性が証明されたが、一般的な抗癌剤とは異なり、免疫チェックポイント阻害剤の効果は投与後すぐには発現しないことが特徴である (Delayed response)。

講演では腫瘍免疫の基礎とペプチド療法・免疫チェックポイント阻害剤による個別化医療について述べる。